

いづみ かずこ

【一宮館主賞】 泉 和子

まさかこんなに長生きするとは思いませんでしたが、近頃は貴方が生きているのか、亡くなつたのかさえ時々わからなくなります。

トンコに「お父さんはどうしたんだっけ。」と聞くと、もう7年も前に逝ったのだと言われ、その度寂しくてたまらなくなります。

いつも私1人を置いては逝けないと言っていたのに。一日一日記憶が薄れていきます、戦後貴方と一緒にになった貧乏長屋での暮らしは、今もはっきり覚えています。

物のない時代で苦労したはずなのに、毎日が楽しくて楽しくて、思い出すと懐かしさで胸が一杯になります。

貴方が戦地から引き揚げてまもなく、私達は出会いましたね。

よくダンスホールに行き踊りに夢中になったことも昨日のことのようです。

子供が授かった後も、長屋の近くに台湾帰りの先生が教えてくれるダンスホールができると、幼い息子を長屋のお隣さんに預けて行きましたよね。覚えていますか。

「泣いたら、ゴンちゃんが来るよと言うと泣き止みます。」と、半ば強引に押し付けて出かけましたね。私は久しぶりのダンスにすっかり舞い上がっていましたが、他の男の人とも踊ったのがよほど気に食わなかったのか、帰り道におこぜのように怒った貴方の顔は、今思い出しても笑ってしまいます。

大事な息子はと言うと、お隣さんから、「ゴンちゃんが来るよと言っても泣き止まんかったよ。」と言われ、悪かったなあと反省したことでした。

器用な貴方は長屋のみんなのためにドラム缶のお風呂や将棋を指す縁台を作ったりしてくれましたね。

また、貴方が先頭に立って、みんなでもちつきしたり、新年会を何回もやったり、ごちそうと一升瓶を抱えてお花見に行ったり、みかん狩りで弁当箱にみかんを詰め込んだり、みんなで笑って暮らした気がします。

そんなこんなの貴方との楽しかった日々を思い出して、天国へ行く日までを過ごしていきたいと思います。待っていてくださいね。

(熊本県／94歳／女性／無職)